

本日春分の佳き日、お蔭を以って天候にも恵まれ、教信徒の皆様におかれましては、遠方各地、畿内、市内近郊より、道の長手も一筋に、春之祖先霊大祭によるご参拝下さいました。皆様方の篤い誠心は、必



ご教話なさる、祭主・大阪本部長様

ずや各家御祖先に届き、更なる大きなお徳を授けて下さるもので御座居ます。本日は大切な祖先大祭の命とは、どの様なものなのかという事は、度々お話しさせて頂いて居ります。まず、我々の身体は自然

から借り物。そして、一人ひとりに宿る魂、心は神の分霊であるということ、は、充分ご理解頂いているかと存じます。形あるものは、自然の摂理に従い、何時かは消滅します。我々の身体も又、死を迎えまると自然に還るわけです。しかし魂、御霊は、例え寿命が尽きようとも、未来永劫存在し続けます。ですから、今日の皆様のお姿の様に、祖先祀りを幾久しくお仕えするということが大変重要な事です。それこそが神道の真髄であり、寶生教の根本である、教憲・天祖中心祖先之御教で御座居ます。申し上げるまでも無く、大神様を心、生活の中心に据え、各家の御祖先も同様にお祀りすることが大切な事です。

この教えを、今を生きている我々が実践すれば、御祖先は更に大きなお力で、教会祖霊殿を始め、各家の祖霊殿、お墓、又皆様のすぐお側で見守って下さるのです。祭典中、謚を読み上げ、御招霊致しました御霊は、亡くなって五十年以内の御祖先ばかりです。五十年経ちますと遠津祖先の列に、百年経ちますと神の列に連なります。我々日本人は神の子、といわれるのでございます。では、信仰は亡くなってからが大切なかと申しますと、決してそうではありません。大切なのは、今、我々が頂いている命を、如何に大切に生きるかということなのです。そして自分たちに今できることは何かを考え、精一杯努力することが重要です。オーストリアの精神科医であり心理学者、アルフレッド・アドラーという人物が、次の様な言葉を遺して

「どんな能力をもつて生まれたかは大した問題ではない。重要なのは、与えられた能力をどう使うかである。」我々は大神様の分霊をいただき、御祖先のお蔭で、それぞれが素晴らしい心をお持ちになり、健康を保つことが出来るわけでございます。そして、与えられた人格、才能を存分に生かし、国の為、教えの為、又自家成立の為に尽力できる様に、共々

に更なる篤い信仰に励んで参りたいと存じます。最後に参りましたが、本日の祖先大祭参りにあたり、婦人世話人の皆様には一昨日より撤饌のお餅の準備、宝寿会の皆様には、前日の玉串謹製のご奉仕、又役員各位には当日のご奉仕誠に有難う御座居りました。各家御祖先方の幽界での弥栄と、教信徒各家の発展を心より祈念申し上げます。本日までご挨拶と致しますようこそご参拝下さいました。

ご教話
心は神の分御霊
—春之祖先霊大祭—

(3月20日)



発行所
宝生教大阪本部
大阪府西成区北堀江3丁目10番
電話 06(6531)6722
FAX 06(6531)6152
© (非売品)

4月号

自家成立の
根源は和にあり
秩序の根源は
神祖崇敬より



祖霊殿に各家毎に謚を読み上げられ、ご招霊。



およろこびをお迎いの少権現職様・敬子様。

権現家のおよろこび
**少権現職訓啓様、敬子様
結婚式進行される。**

二月二十八日、大阪本部修行殿にて、少権現職訓啓様、小西家より迎えられました敬子様の結婚式が、厳粛に執り行われました。当日は二月とは思えない暖かい陽気と晴天に恵まれ、訓啓様の紋付き姿と敬子様の白無垢姿が、とても良く青空に映えておられました。お二人の新しい門出を祝し、末永くお幸せに過ごされませうことを願っております。尚、七月中旬には女兒が生まれに予定です。

彦は三年もの間、遊んで暮らします。三年後、山幸彦はここへ来た理由を思い出し、海の神に相談し、ようやく兄の釣針が見つかり、結果的に、この兄弟げんかは、弟の山幸彦が勝つこととなります。山幸彦は海中に居る間、豊玉姫之命と結婚し、子を授かります。豊玉姫之命は海中で産するわけにはいかないと地上に上がってこられます。そして産屋に入り山幸彦に、絶対に産屋の中を見ないようにと告げます。しかし約束を破って覗いて見ますと、何とワニに姿を変えた豊玉姫之命がお産しているのです。その姿を見られた豊玉姫之命は、子を置いて

て海へ帰ってしまったという物語なのです。ちなみに、この山幸彦と豊玉姫之命の子の、更にその子が初代神武天皇であるといわれております。この神話から読み取れるのは、遙か昔の日本人も、既に「命の根源は海にある」と考えられていたのではなからうかという事なのです。ここで話を最初に戻しまして、人間の身体には、水と塩が必要不可欠だと申し上げました。そして、海は水と塩で出来ております。もう申し上げるまでもございませぬ。である我々の命の起源は、正に、海にあるということなのです。



スライドを使つての清水有子様の講演。

古事記の講話と楽しい会食。
—合同敬和会・新年会—

去る二月十三日土曜日に大阪近郊合同敬和会を寶生教大阪本部で教父様、教員長様を始め権現家の皆様や教職員の皆様のご参列をいただき、各地区の信徒の皆様とともに総勢約八十名のご出席のもと盛大に開催さ

せていただきました。ご本殿にて全員で参拝をさせていただき、引き続き「古事記の伝道師」清水有子様にご講演いただきました。分かりやすく興味深い話で皆耳を傾けていました。その後、修行殿に場所を

移し新年会が始まりました。お食事をしながら森末地区世話人の詩舞、地区世話人企画のイントロクイズ、青年部企画のドラマ、映画当てクイズ、福引大会と皆で賑わしい時間を過ごさせていただきました。合同敬和会はお開きとなりました。地区世話人 山本浩嗣 華をそえる、森末氏による詩舞。



華をそえる、森末氏による詩舞。

教会行事

四月 一日(木)	月並祭	午後七時
四月 四日(日)	御本宮春之大祭	午前十一時半
四月 八日(木)	御本宮遙拝式	午前九時
四月 九日(金)	修行日	午前十一時、午後七時
四月 十日(土)	教祖祭	午後七時
四月 十一日(日)	大祭準備	午前九時
四月 十五日(木)	神輿巡行	午後一時半
四月 十八日(日)	月並祭	午後七時
四月 二十五日(日)	養老教会春之大祭	午前十一時半
四月 二十五日(日)	修行日	午前十一時
四月 二十九日(祝)	西播教会春之大祭	午後七時
五月 一日(土)	月並祭	午後七時
五月 二日(日)	御本宮月並祭	午後七時
五月 二日(日)	御本宮遙拝式	午前十一時半
五月 八日(土)	修行日	午前十一時、午後七時
五月 九日(日)	教祖祭	午後七時

「愛教婦人会」
総会開催の
ご案内

コロナ禍で延期となつておりました、愛教婦人会総会を左記の通り開催する運びとなりました。多くの会員の皆様のご出席お待ちしております。愛教婦人会年次総会 令和三年五月九日(日) 正午より ※新規会員も募集中です。お申込み、詳細は教会事務所迄。

祝祭日には必ず国旗を掲揚しましょう

寶生教 国旗掲揚運動

ご教話 命とは、生とは。

教祖祭 (3月9日)

扱、我々の「命」とは、一体何なのでしょう。我々の信仰する寶生教、つまり神道では「命」をどの様に捉えるのかというお話を致します。

「死生観」という言葉をご存知かと思えます。読んで字の如く、生とは何か、死とは何かという考え方のことです。

では、神道ではどのような死生観をもっているのでしょうか。

まず我々の身体は、「自然からの借り物」であると

云われており、寿命を迎えると肉体は滅び、再び自然に還ります。

そして、我々一人ひとりには魂が宿っています。この魂は、「神の分御霊」です。魂は目には見えませんが、確かに存在しております。

この自然からの借り物である、非常に神秘的な身体や、神の分御霊である魂を、人間が同様に創り出すことが出来るかという点、全く不可能なことでは、母親の体内で胎児が成長する過程も、その身体に魂

ご教話 教亡くなつた後は。

月並祭 (3月15日)

扱、先日の教祖祭では、「命」とは何ぞや、というお話を致しました。

振り返って要約しますと、身体は自然からの借り物、そして一人ひとりに宿る魂は神の分御霊でございます。

本日は、その命が寿命を迎えたらどうなるのかというお話です。

まず身体は、自然からの借り物ですから、自然に還ります。かつては土葬で、ご遺体をそのままに埋葬しましたが、現在では火葬し、お骨をお墓に納めます。火葬を行う前には葬儀を執り行います。その葬儀の祭詞のなかで、「古き国風の隨に悲ししが内に万計を整えて」という言葉を申し上げます。

悲しみの中にあります。日本に古来ある方法で

が宿る瞬間も、人間には計り知れない、人知を越えた、神のみぞ知る領域なのです。

「日本人、つまり大和民族は神の子だ」という言葉は、正に「神の分御霊」であることに由来します。

ですから、命を大切に、お互いに尊重し合わなければならぬということ。

大自然の中では非常に弱い生き物です。弱くからこそ、互いに認め合い、助け合ひながら生きていかなければなりません。

【奉仕者の顕彰】(敬称略) 教会清掃奉仕者

春之祖先霊大祭(三月二十日)祭典後に、今年度の定例信徒総会が開催されました。

岸田総代の議長のもと、令和二年度の教務報告、教会会計報告がなされ、賛同の拍手により承認され、続いて恒例のご奉仕者の顕彰が行われました。

次の方々です。

【奉仕者の顕彰】(敬称略) 教会清掃奉仕者

(日々の教会清掃、手間を通して十五日以上の方々)

木本春代、柳田雅子、山本さかゑ、木本やす子、玉串調整奉仕者

(宝寿会を中心に、各祭典の拍手により承認され、続いて恒例のご奉仕者の顕彰が行われました。)

小田井泰憲、和田充泰、小田井たつ子、和田裕江、山口信子、木本やす子、日々参拝

(年間九十日以上参拝並びに)

奉仕の方々)

寄本文信、内池忠嗣、岸田年訓、栗原稔明、岡本正二郎、木本順造、中谷悦造、朝野恒男、岸田泰行、長澤豊信、森修康、島田晴雄、写真奉仕

(教会諸祭典、行事に際し、記録、機関紙「寶生」用として、写真撮影、アルバム作成奉仕)

高木直治

御本宮 月並祭

毎月第一日曜日 午前十一時半より

方法で大切にお祀りするのが日本の神道なのです。

そして亡くなられた後、御霊は何処に存在するのでしょうか。まずは御霊代にお鎮まり頂き、各家の祖霊殿でお祀りします。

それから、何時でも、何処へでも、即座に移動されます。ですから、各家の祖霊殿は勿論のこと、終の住処であるお墓にも、今を生きる我々の身の回りにも

ご教話 「水」と「塩」について。

月並祭 (3月1日)

常に居られ、ご守護頂いている訳なのです。

何度も申し上げますように、肉体は自然に還り、何れ滅びますが、御霊は未来永劫存在し続けます。

そして、もう既にお解りのように、葬儀やご祖先を祀るといことは神道行事です。それこそ神話の時代から連綿と受け継がれてきた、大切な精神です。

その精神を実践するの

が、寶生教の「天祖中心祖先教」です。その尊い教えを常に心の中心に据え、信仰生活を実践して参りたい

本日は「水」と「塩」のお話を致します。

まずは「水」ですが、人間の身体には沢山の水分が含まれており、成人で約六〇%、新生児は、何と八〇%が水分で出来ています。

それ程、我々人間が命を維持するには、「水」が必要不可欠であります。

日本は水道水が飲める国

ですが、世界約二百ある国の内、どれ程の国が水道水を飲めると想像されますか。

その答えは、わずか十二カ国だけだといわれております。我々の住む日本は、

新作能「アマビエ」が奉納される

「コロナ収束を願い祈願祭も」

二月十七日(水)、穏やかな冬晴れのもと、本部教会本殿に於いて、疫病を治めるとされる妖怪「アマビエ」を題材にした新作能の奉納式が執り行われました。

「苦難は憂き世の常なれど、真砂の松が枝の、露の葉草に心を澄ます人の多きを喜び申すべし。これより後にも守るべし。」と語り、深い海へ入った。

本部長様は最後のごあいさつで、

「いつの時代でも、どんな人にも、悲しいこと、つらいことは訪れます。しかし、止まない雨はありませんし、明けぬ夜もありません。悲観すること無く、それが強い心を持ち続け、いつか必ずやってくる明るい日々に向けて、お互いに努力致しましょう。」と締めくくられました。

日頃、教会謡曲部のご指導を賜る、シテ方観世流職分・上野朝義先生をはじめ、能楽師の先生方が、本殿御前前で、新型コロナウイルスの収束を願い、新作能「アマビエ」を奉納。

当日はコロナ対策を万全に施し、教信徒をはじめ、地元堀江にお住まいの方々、又上野先生の生徒ら約五十名が参列。

能楽奉納に先立ち、部長様斎主のもと、祈願祭を厳粛に執行。新型コロナ禍が一日も早く収束し、安心立命な生活を迎えられる様祈願致しました。

続いて新作能「アマビエ」の原作者で能楽師の小鼓方

公演に移り、はじめに舞囃子「高砂」奉納。「高砂」は兵庫県高砂市高砂神社の相生の松によせて夫婦愛と長寿を愛で、人世を言祝ぐ大変めでたい能。

シテ方観世流流職分・上野朝彦先生は公演後、「この様な状況であるからこそ皆様に活力をと、敢えてめでたい演目を選んだ」とごあいさつされました。

いよいよ「アマビエ」の登場。とある役人が、ある夜夢に現れた「アマビエ」に、疫病退散・無病長寿の世となる術を授けられる。



上野朝義先生「アマビエ」の奉納の様子

大倉流・上田敦史先生が作品を解説。

昨年から続く外出自粛で、能楽師としての活動の場が見通せない中、SNSで話題になっていたアマビエを能に取り込んだ経緯を紹介。「プラスの力を表現しようと思った」と語られました。



本部長様斎主となり祈願祭の様子

先生「高砂」舞囃子

上野朝彦先生は公演後、「この様な状況であるからこそ皆様に活力をと、敢えてめでたい演目を選んだ」とごあいさつされました。

いよいよ「アマビエ」の登場。とある役人が、ある夜夢に現れた「アマビエ」に、疫病退散・無病長寿の世となる術を授けられる。

「アマビエ」は、

「苦難は憂き世の常なれど、真砂の松が枝の、露の葉草に心を澄ます人の多きを喜び申すべし。これより後にも守るべし。」と語り、深い海へ入った。

本部長様は最後のごあいさつで、

「いつの時代でも、どんな人にも、悲しいこと、つらいことは訪れます。しかし、止まない雨はありませんし、明けぬ夜もありません。悲観すること無く、それが強い心を持ち続け、いつか必ずやってくる明るい日々に向けて、お互いに努力致しましょう。」と締めくくられました。

「水」に大変恵まれた国であることがわかります。

続いて「塩」ですが、人間の血液はおよそ〇・九%の塩分濃度だといわれております。

では何故我々の身体には「水」と「塩」が重要なのでしょうか。

それは、我々の命が、海から誕生したからなのです。人間に限らず、全ての動物の進化の起源は海にあります。その進化の過程を、人間は母親の身体の中で、わずか十月十日のうちに体験し、誕生するのである。

この様なことは様々な研究され、現在では誰もが知る情報かも知れません。

しかし、神代の時代から既にその様に考えられていたのではないかと、この「水」と「塩」の物語の中に垣間見えます。

有名な神話に「海幸山幸」という物語があります。名前のごとく、海の漁が得意な海幸彦(兄)と、山の猟が得意な山幸彦(弟)の物語です。

兄弟はある日猟具を交換し、山幸彦は魚釣りに出かけますが、兄に借りた釣針を海で無くしてしまいました。困り果てていると、大きなサメがやって来て海の中の竜宮城に案内され、山幸